

人のつながりに

支えられた3年間でした



藪田佳奈
(やぶた・かな)

土地勘も知り合いもなく、意気込みだけでこちらにやって来たときは今でも鮮明に覚えています。そして、3年経った今、振り返ってみると、本当に全力で突っ走った3年間でした。

まずは、友達づくりと大山町を知ることだと、地図を頼りに車で走り回りました。少しずつ知り合いが増え、いろんな人と話をする中で大山を知り、その中で私が向き合う軸となったのが「移住」「空き家」「アート」「食」というテーマでした。

そして、このテーマをもとに「シェアハウスのまど間」「てまひま」の2拠点の整備をし、さまざまなアートプロジェクトにも関わることでできました。各プロジェクトで

の出会いはもちろん、全国各地で同じようにまちづくり活動を実践する人たちや、世界中の人たちと出会う機会にも恵まれ、たくさん仲間となることができることができました。人のつながりの大切さやパワーをこんなにも感じたのは初めての経験で、貴重で濃厚な3年間になったのはいうまでもありません。

3月末で「地域おこし協力隊」としての任期は満了となりますが、今後も変わらず大山町で根っこを広げて活動を続けていきます。本当に本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお祈りします。

「いくら説明しても納得してもらえない人を、あなたはどややって説得しますか？」これは私が地域おこし協力隊の面接で受けた質問の一つ。私は「ひざをつき合わせてとことん飲みます」と答えました。

さて、そんな面接を経て、2014年10月に3人目の協力隊員として着任しました。私は中山地区出身のUターン。不安の中、各公民館や活動グループのところへ挨拶に伺うと、あつという間に同級生の親兄弟、親戚、友達や友人の親兄弟、親戚、友達の友人達、はては父の恩師へとどんどんつながり、皆さんが温かく迎え入れてくださいました、ここがホームであること

を心強く感じました。皆さんとの出会いの中で、気づいたのは、住民自らイベントや企画行事を打ち出して「地域おこし」に奔走する人たち

たちがたくさんいるのに、その情報を発信する力が不足していることでした。私自身も、中山温泉で映画上映を企画するようになり、情報発信の場を模索していました。

「私が情報の中継地点になったらどうだろう」。そんな思いつきでテレビ（大山チャンネル）やラジオ（地域コミュニティFM）に出ることにしました。

現在、どんな住民さんをゲストに呼んで、全住民タレント化を計画中です。人を呼び込みたいイベント情報などがありましたら率先してしゃべりますので、ぜひご連絡ください。

3月いっぱい「協力隊」としての任期は終わりますが、これからも皆さんと一緒に大山町を盛り上げたいと思います。引き続きよろしくお祈りします。

情報発信の

中継役に



青木郷香
(あおき・さとこ)

「広報だいせんに協力隊の活動を書きましよう」と声をかけられ始まった奮闘記。約3年にわたっての連載で、遠くは北海道からお手紙をいただいたり、初めてお会いした方からも「広報見てるよ！」と声をかけてもらったりしました。

私たち協力隊の思いや活動の様子を伝えることができる大切なコーナーでした。最終回となってしまいました。最後まで読んでくださりありがとうございました。

